

目標および成果指標の設定 記入様式

活動団体名： 八女が好き 8C！やめスマ研究所

上位関連計画にみる地域の将来
 ○地球温暖化対策推進法や政府の目標：2013年度比で2030年までに46%削減、2050年までにカーボンニュートラル達成
 ○第5次エネルギー基本計画における、2030年に実現を目指す再エネの電源構成比率：22～24%、2030年に実現を目指す実質エネルギー効率（最終エネルギー消費量／実質GDP）35%減。
 ○現在の人口：60,092人、将来：52,291人（2030年）、41,696人（2045年）（日本の地域別将来推計人口（平成30年推計））
 ○「これからも八女に住み続けたいと思う」と回答した人の割合 現状：68.9%（2019年）→目標：75%（2025年）
 ○市公共施設から発生する二酸化炭素排出量 現状：11,966t-CO2（2016年）→目標：10,434t-CO2（2026年）

②具体的な取組
もっと広く！（やめスマ研究所）
 ・ワークショップ・イベント開催、事務局機能、地域コーディネート
もっと深く！（ステークホルダーミーティング）
 ・ステークホルダー巻き込み、ステークホルダーミーティング開催
 ・事業化：【環境】魅力MaaSやめ（EVシェア事業）、【経済】八女の地域笑舎（八女の人事部、やめスマBASE、3R事業部）
 【社会】八女の楽校（やめクエストウォークラリー、地域の人事図鑑、八女ボードゲーム）

①ありたい未来
 『強い田舎を創りたい』
 強い田舎とは、「稼げる」・「チャレンジできる」・「ワクワクできる」・「楽しい」・「安心」を満たした地域
 2050年ビジョン：“ステキ”に“パケツツケル”八女
 （環境）地域資源と共に在り輝く“ヒト”を育む八女
 （社会）チャレンジを応援できる“ヒト”を育む八女
 （経済）地域の経済をリードする“ヒト”を育む八女

③短期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2023年度末)	実績値 (2023年度末)	単位
環境	市役所の巻き込み	ステークホルダーMTGへの参加課数	1	3	4	課
	EVを活用した事業実施	事業実施回数	0	1	2	回
	森林組合・JAの巻き込み	ステークホルダーMTGへの参加回数	0	2	0	回
経済	事業構想の具体化	事業数	0	1	3	事業
社会	イベント・ワークショップ開催	開催回数	9	9	15	回
	コアメンバーの増加	人数	5	8	10	人

④長期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2023年度末)	目標年度 2030-2050年度	目標値	単位
環境	地域脱炭素の取り組みにやめスマ研究所が関わる	関わった自治体数	3	1	2030年度	7	自治体
	EVを活用した事業実施	事業実施回数	2	1	2030年度	10	回
	農林業と関わる事業実施	事業実施回数	0	0	2030年度	10	回
経済	収益化事業の創出	創出した事業数	0	0	2030年度	3	事業
	八女の人事部	参画企業数	0	0	2030年度	30	企業
社会	八女の楽校	コンテンツ数	1	0	2030年度	50	個
	イベント・ワークショップ開催	開催回数	15	9	2030年度	24	回
	ステークホルダーの増加	ステークホルダーの団体数	19	15	2030年度	60	団体

⑤短期指標が長期目標にどのように関わるのかお書きください

今年度は昨年度に引き続き仲間づくりに注力しますが、第二フェーズとして事業の具体化を図るために役割を分担します。やめスマ研究所としては、これまでに引き続きワークショップやイベントの開催を通じて想いに共感して下さる仲間を発掘すると同時に未来について考えるキッカケづくりを行います。一方で、ステークホルダーミーティングの場ではこれまでに出了た事業のタネを具体化していくための打合せにより、地域課題及び地域資源の整理並びに足りないリソースを把握することで、より具体的な声掛けを実施します。こうした2つの軸をもって地域内で活動していくことで、理想の未来の実現に向けてよりスピード感をもって取り組みができると考えています。

※環境・経済・社会がどのように関係し合い、相互に高まっていくのか具体的にお書きください